OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	大阪大学低温センターだより No.107 裏表紙
Author(s)	
Citation	大阪大学低温センターだより. 1999, 107
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/21845
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

〈編集後記〉

平成10年3月より「低温センターだより」の編集委員をさせていただいております。これまでに編集作業に携わって感じたことを徒然に書かせていただきます。「低温センターだより」では文字通り「低温」をキーワードにした物性、材料関係の論文が多く、私個人としても非常に興味深く読ませて頂いております。また、阪大オリジナルということで、現在、阪大で行われているホットな研究を比較的平易に解説して頂いており、普段交流の少ない学部や学科の先生方の研究が幅広い方々にご紹介できるのが最も大きなメリットではないでしょうか。本号でも有機超伝導体を単なる伝導体としてでなく“分子”に主眼をおき分子運動の面から物性研究にアプローチされた仕事や、我々の身近な“氷”の物性から惑星の成り立ちを解明する試みなど非常にユニークな低温研究の紹介がなされております。また、技術ノートでは高圧下でのNMRが簡便に測定できるプローブの紹介がありました。これも低温高圧下での物性研究に役に立つツールではないでしょうか。

さて、低温センターは、液体ヘリウムや液体窒素を用いた正真正銘の低温物性研究に大きく貢献していることは誰もが認めるところです。しかし、これ以外でも超伝導磁石を使うNMRのように低温技術を駆使した最先端測定機器が普及してきた現在、“正真正銘”の低温物性研究とは分野を異にする研究室の方でも寒剤の使用は避けて通れない状況になりつつあります。このようなユーザーが増えると寒剤供給・装置維持という意味でますます低温センターの存在価値は増していくものと思います。編集委員としてはもちろんですが、エンドユーザーのひとりとしてもこの「低温センターだより」が皆様の低温センターへのご理解と運営維持に貢献できることを願って止みません。

（上田　貴洋）

大阪大学低温センターだより　第107号

平成11年7月　発行

編集責任者　邑　瀬　和　生

発　行　者　大阪大学低温センター

吹田分室　大阪府吹田市山田丘2番1号

電話（06）6879－7985

豊中分室　大阪府豊中市待兼山町1番1号

電話（06）6850－6691

印　刷　所　阪東印刷紙器工業所

大阪市福島区玉川3丁目6番4号

電話（06）6443－0936（代表）

目　　次

No. 107

研究ノート

超低温NMRによるSr_2RuO_4のスピン３重項超伝導の同定

…… 基礎工学研究科　石田　憲二
棕田　秀和
北岡　良雄 …… 1

有機超伝導体のガラス転移

…… 理学研究科　齋藤　一弥 …… 8

外惑星の氷は何を語るだろうか？
— 氷の照射効果を用いたESR年代測定・環境評価の試み —

…… 理学研究科　法澤　公寛
彼末　一則
平井　　誠
池谷　元伺 …… 15

技術ノート

簡易型高圧NMRプローブの試作
— 超臨界流体内でのNMR測定を目指して —

…… 理学研究科　永阪　文惣
江口　太郎 …… 19

組織運営 …… 24

お知らせ …… 25

表紙説明：超臨界CO_2中のNMR測定の概念図（本文p.19参照）